

様式11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館	評価対象年度	令和4年度（令和4年4月～5年3月）
事業者名	・事業者名 生田緑地共同事業体 （令和3年4月1日付で生田緑地日比谷花壇・日比谷アメニス・東急ファシリティサービス共同事業体から名称変更） ・代表者名 株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 宮島 浩彰 ・住所 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号 ※構成員：株式会社日比谷アメニス、東急プロパティマネジメント株式会社（令和3年4月1日付けで、東急ファシリティサービス株式会社から東急プロパティマネジメント株式会社へ商号変更）	評価者	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所長 市民文化局市民文化振興室岡本太郎 美術館副館長 教育委員会日本民家園長 教育委員会青少年科学館長
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	所管課	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館 教育委員会日本民家園 教育委員会青少年科学館

2. 事業実績

利用実績	<p>【生田緑地】利用者数：750,211人、駐車場利用台数：93,654台（内訳：東口駐車場：67,158台、西口駐車場：26,325台、生田臨時バス駐車場：171台）、東口ビジターセンター利用者数：192,808人、西口サテライト利用者数：10,005人</p> <p>【岡本太郎美術館】利用者数：60,884人（令和4年9月1日～令和5年1月31日 「母の塔」前広場の防水工事による休館）</p> <p>【日本民家園】利用者数：101,125人</p> <p>【青少年科学館】利用者数：249,649人</p>
収支実績	<p>&lt;収入&gt;指定管理料：410,271千円、利用料金収入（駐車場）：35,244千円、事業収益（売店等）：11,966千円、自主事業収益（イベント等）：13,144千円、その他収入（協賛金等）：2,952千円 計：473,576千円</p> <p>&lt;支出&gt;管理運営経費等：494,890千円（うち間接経費（本部経費）23,566千円） 計：494,890千円</p> <p>&lt;収支差額&gt; ▲21,314千円</p> <p>※電気料金等の高騰に伴い、リスク分担により、費用増加分の半額（6,626千円）を市が補填予定。補填後の収支差額は、▲14,688千円（参考値）。</p> <p>※令和3年度より間接経費（本部経費）を支出金額に計上。</p>
サービス向上の取組	<p>新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和される中、レジャーの選択肢が広がり利用者の減少が見られるうえ、エネルギー価格の高騰による経費の増加等、厳しい環境の中、様々な工夫により以下のとおりサービス向上の取組を行った。</p> <p>【感染症対策】 本市の対応方針等、状況が変化した場合、感染症対策を各施設の実情に応じて臨機応変に実施した。利用者への案内についても、変更に応じ速やかに情報共有し、掲示等の対応を行い、利用者の混乱を生じさせることなく円滑に対応した。</p> <p>【人員配置】 各スタッフが普段から生田緑地内の各施設の業務を把握・理解し、コロナ等による急な欠員や大規模なイベント時にも施設間のスタッフの融通により対応するとともに、本部からの応援体制も構築し、管理運営に支障を来すことなく円滑に行った。</p> <p>【利用マナーの向上】 スタッフの日常的な交流の中からそれぞれの得意分野を活かして生まれた利用マナー啓発キャラクターについて、缶バッジを作製し生田緑地の新たな土産としたり、このキャラクターにちなむ「いくたりよくちヒーローのうた」を作詞作曲し、カラオケ動画を作成してイベントで活用する等、単なる啓発にとどまらず、楽しさを加え、マナー向上を図った。</p> <p>【美術館における取組】 企画展「小松美羽」展では、多くの来館者が想定されたため、本市と連携し綿密な準備を行い、利便性の向上に向け事前予約システムやキャッシュレス決済を導入し、また、入館時の案内や館内動線を確保し混乱なく対応した。</p> <p>工事休館中は、多彩なワークショップ等をはじめショップやカフェの営業についてSNS等を通じた発信により来館を促すとともに、自主事業や看視スタッフによる館内特別清掃を行うなど美術館の魅力向上に向けた取組を実施した。</p> <p>【行事・イベント等】 サマーミュージアムの代替イベントの「十五夜フェスタ」では、カフェのテラスをステージにした音楽イベント等、初めて夜間まで開催し、第2期指定期間で最大となる11,577人の来園となった。また、スタンプラリーでは、従来のはがきによるWチャンス応募を、インターネットでの応募とはがきの併用とし、参加の拡大を図った。</p> <p>【各種案内表示】 緑地内の各種案内について、統一された表記に変更した。また、奥の池の掲示板、初山等の利用ルールの看板等の更新を行ったほか、市民団体と協働により解説文と写真を掲載した野鳥単一種看板を制作した。また、利用者からの意見も参考に、梅園の看板について、日本梅の会会長により品種同定を行い、その内容に基づき更新した。</p>

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度		利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	4	6.4
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
事業成果		事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	4	4.8
		当初の事業目的を達成することができたか			
自然環境の保全		市民との協働により自然環境の保全が図られているか	8	4	6.4
魅力の向上		施設間の連携・多様な主体との連携により生田緑地全体の魅力の向上が図られているか	8	5	8
		生田緑地全体広報が戦略的に展開され、魅力発信できているか			

(評価の理由)

【利用者満足度】

●利用者満足度を把握するため、常設アンケート調査及び、四半期ごとのアンケート調査を適切に実施した。アンケート調査の利用者満足度では、令和4年度は平均で約58%の利用者から「とても満足した」、約37%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約95%の利用者から「満足した」以上の評価を得て、引き続き高い評価となった。(参考：平成30年度約95%、令和元年度約94%、2年度約94%、3年度約97%)

【事業成果】

●月次及び四半期ごとのセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行うなど、利用者満足度の向上に努めた。下記「5年目の行動目標及び取組結果」では、設定した目標を達成し、成果を上げたものと考えられる。  
 ・「市内の他緑地や他施設とのボランティア交流や連携による市全体の活性化の促進」の目標については、多摩川パーベキュー場への薪の活用提案や、市内商業施設でのポストカード販売、市民団体の協働により管理されている他の公園への生田緑地マネジメント会議会員団体の視察に協力した。  
 ・「生田緑地ビジョンの目標とあわせて検証を行い、さらなる目標の設定」の目標については、生田緑地の発生材の有効活用や、多彩な自主事業や一体的な広報により魅力向上につなげるなど、生田緑地ビジョンの目指す方向性と合致し、生田緑地の持つ可能性を広げるものとなった。  
 ・「生田緑地マネジメント会議の成果検証と、次の目標の設定」の目標については、指定管理者としてマネジメント会議の運営の経験を生かし、生田緑地ビジョン改定プロジェクト会議に参加し、ビジョン改定に向けた協力を行った。  
 ・「市民や観光客など、多様な利用者による交流や協働が活発に実施される市の拠点」の目標については、イベント実施の経験のない近隣大学の学生に適宜助言を行いながら協力したり、近隣商店街のイベントに生田緑地として参加しワークショップを開催するなど、交流の場としての活動を積極的に行った。  
 ・「SNS・Twitterの強化及び情報発信手法の次期更新へ向けた新たな展開・アクション」の目標については、インターネットサーバの改良を行い、サーバダウンの問題を解消するとともに、SNSでは特にツイッターでフォロワー数を順調に伸ばした。また、民家園においては、プレスリリースの強化及び早朝の撮影対応等を行い、3回の全国放送の朝の情報番組の誘致に成功し、中継後、大きな反響があった。科学館では、漫画の舞台として登場したという情報を得て、出版社にアプローチし、その後の特集記事への掲載やショップでの単行本の販売等、機を捉えた効果的な取組を行ったほか、全国の博物館等のキュレーターが自館の収蔵品を紹介するツイッター上の企画であるキュレーターバトルで多くのインプレッションを獲得するなど、館の知名度の向上に貢献した。美術館では、「母の塔」前広場でのミュージックビデオ撮影協力等により生田緑地を全国的に発信することにつながった。  
 ・「多摩区制50周年との連携」の目標については、各種広報に協力するとともに、多摩区50周年記念事業の生田緑地連続講座の運営に携わった。また、50周年記念区民祭について、駐輪場のスペース確保など、円滑な運営に協力した。

【自然環境の保全】

●植生管理計画等に基づき、各団体と調整しながら管理作業を実施した。市によるナラ枯れ樹木の伐採の際は、伐採・搬出等の方法や当該樹木周辺の希少植物への影響等について、市と共に市民団体との現地協議を行った。また、市民団体が行う伐採作業後の玉切りの実施や、作業に使う機器のメンテナンス・更新に協力するなど、市民団体の活動支援を行った。  
 ●ナラ枯れ樹木について、継続調査により、被害木の減少傾向や、被害があっても生き延びる木が多数あった等の結果を自然会議で報告した。  
 ●自然環境保全会議についてナラ枯れ被害の拡大を踏まえ、令和4年度は通常の開催頻度(2~3回)を上回る年6回開催し、ナラ枯れの状況を踏まえた今後の植生について、方向性の確認に向けた議論の場を設定した。

【魅力の向上】

●生田緑地マネジメント会議及び自然環境保全管理会議の事務局として円滑な運営を行い、同時に「緑化フェア」「生田緑地ビジョン改定」「自然の経営」の3つのプロジェクト会議の立ち上げ及び運営を行う等、多大な貢献をした。また、緑化フェアに関しては、プロジェクト会議以外にも市の計画段階から意見聴取の協力や、グリーンスローモビリティの実証実験への協力等、開催に向け現場の立場で大きな役割を担っている。  
 ●自然環境保全会議事務局として、マネジメント会議会員を対象に11月に「横浜自然観察の森で学ぶ会」として、借り上げバスで現地を視察するとともに、ボランティア団体である友の会と交流の場を設け情報交換を行う企画を実施した。  
 ●サマーミュージアムの代替として、やや規模の小さいイベントを年2回開催し、9月に開催した十五夜フェスタでは、初の昼夜間連続のイベントを企画し、カフェと連携しコンサート等を開催したり、学芸と連携し多くのワークショップを開催する等、特に夜間の新たなニーズを発掘し、第2期指定期間最高となる11,577人の来園があった。また、3月に開催したスプリングマルシェでは、心と体の健康をテーマに体を動かすプログラム等を実施し、好評を得た。  
 ●SNSでは、緑地及び各館でのイベントや展示、四季の見どころの発信に加え、緑地内での日々の小さな発見やお弁当を使った日常風景の写真や興味を引くツイート等をこまめに投稿し、思わず公園に行きたくなるような発信を行い、フォロワー数が順調に増加した。  
 ●利用ルール「動植物を持ち出さない・持ち込まない」の啓発としてスタッフがデザインしたキャラクター「いくたりよくちヒーロー」の缶バッジを生田緑地のお土産の一つとして販売するとともに、同じくスタッフの作詞・作曲による「いくたりよくちヒーローのうた」をイベントで活用する等、楽しさを提供しつつ啓発を実施した。  
 ●科学館で「花育」を目的としたアレンジメント等のワークショップを初めて行い好評を得たほか、定着した美術館でのアレンジメント講座等、指定管理者の強みを生かした自主事業を数多く展開した。  
 ●生田緑地を題材とした絵画コンクールでは多数の応募があり、来園者も含めた投票を行うことにより、生田緑地の魅力の再発見につながった。  
 ●美術館自主事業として、生田緑地西口の利用活性化を目指した土日祝日の西口広場へのキッチンカーの誘致により、通り過ぎるのみであった人の流れに滞留が発生し、生田緑地西口の賑わいを創出した。  
 ●日本民家園WEBサイトに藍の色を基調とした伝統工芸館の特設ページを設け、藍染の美しさや奥深さ・伝統を伝えるとともに、同館の藍染体験について周知した。またオンラインショップへのリンクにより、藍染商品の販売促進につながった。  
 ●市立高校の美術部展覧会では高校生が自分たちで展示や看視を行うための支援を行ったり、イベントに不慣れた大学生にさまざまな助言を行いながら共に作り上げていくなど、協働のなかで若者の活動への支援を行い、イベントの成功に導いた。  
 ●市民団体との協働の取組については、定例のどろんこ教室、里山倶楽部、ホテル観察会、じゃがいも学校等継続して活動支援を行った。また、ハナイカダの移植に関しては市民団体同士の橋渡しを行い、希少種の保護エリアへの柵の設置や、オカトラノオの開花時には来園者が楽しめるよう草刈りをして看板を設置する等の協働の取組を行い、魅力の向上につながった。

利用者満足度

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	3	4.8	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	3	2.4	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3	2.4	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	<b>【効率的・効果的な支出】</b> ●結果として電気料金の高騰により経費が大幅に増加したものの、節電に関する意識向上を徹底し、東ロビジターセンターでは1階と2階で空調の温度設定を変えたり、各館でそれぞれ工夫して電気使用量の削減に努めた。 ●消耗品について、購入先の比較や横断的管理運営を生かした一括購入によりコスト削減を図った。 ●十五夜フェスタでは、市内在住ファミリー層をターゲットとして、チラシの配布先を多摩区内小学校の児童や近隣保育園に集中し、多くの来園者を迎えることができた上、一人当たりの広告宣伝費を圧縮することができた。					
	<b>【収入の確保】</b> ●自主事業では、西口広場や民家園でのキッチンカーや、利益率の高いマルシェをゴールデンウィーク期間中は平日も開催する等、回数を増やし収入の確保につなげるとともに利用者の利便性を高め、地域の飲食店の収益確保にもつなげた。また、オンラインショップでの藍染め商品の充実を図り、ポストカードもばら苑での販売を見込んだバラの写真の新作を多く投入する等、魅力の向上にも資する自主事業を展開した。					
<b>【適切な金銭管理・会計手続】</b> ●納品書・請求書等の伝票管理を適切に行っており、報告書には支出費目ごとの内訳や月別・施設別の事業収支が添付されている。また、各館の観覧料を溜め置きしないよう入金ルールを徹底した上、大型連休の際は本社入金担当と連携し遅延のないように実施したり、入金機の使用の際には個人コードでログインする等セキュリティを強化し、適正な管理を行った。						

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	6	4	4.8	
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか				
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか				
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4	4.8	
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか				
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8	
		意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）				
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
	(評価の理由)					
	<b>【適切なサービスの提供】</b>					
	●感染症対策に関して、本市方針の変更や各施設の実情に応じた取扱いの変更について、速やかに情報共有し、利用者への案内表示等の変更を直ちに行い、混乱を生じさせることなく円滑に対応した。					
●客車内の広告スペースを活用した多摩消防署の火災予防ポスター展への協力、菖蒲園の東屋を舞台とした能公演、NHK大河ドラマに関する展示の相談があった際に桁形山展望台の利用を提案し、新たな活用につなげ、利用者から好評を得た。						
●民家園通り商店会夏祭りへのワークショップ及びグッズ販売の出展、多摩区エコフェスタでの発生材を活用した竹風鈴ワークショップの開催、川崎日航ホテルのイベントへの民家園の風づくりワークショップ参加、川崎駅前商業施設での生田緑地特設コーナーでのポストカード販売等、生田緑地の外での活動を積極的に行った。						
●多くの来館者が想定された美術館の企画展小松美羽展の開催にあたっては、事前予約システム、キャッシュレス決済などこれまでにない来館者サービスを導入するとともに、新たな来館者導線の作成、入口の滞留防止のためスタッフの増員等を行い、また、会期中にも状況に応じ適宜運用を見直し円滑な運営を行った。						
<b>【業務改善によるサービス向上】</b>						
●実施計画どおりにサービスを提供できなかった場合は、毎月・4半期ごとのモニタリングで確認したうえで、その原因を追求し、次回以降はその改善点を踏まえて実施するよう努めた。						
●令和4年度に急増した大規模イベント時の自転車対策として西口バイク駐車場横に臨時駐輪場をあらかじめ設けたり、状況に応じて中央広場付近まで駐輪スペースを広げ、整理・誘導を円滑に行う等、臨機応変に対応するとともに、混雑が予測される際に構成企業から応援人員を配置するなど、万全の体制で対応した。						
●ボランティア団体のポスターについて、二次元コードを記載するとともに、関心のある来園者に一歩踏み出せるような編集を行い、5人の新規加入に繋がった。						
<b>【利用者の意見・要望への対応】</b>						
●近隣住民からの草刈り・剪定等の要望や利用者からの苦情や要望に対して、迅速かつ適切に対応するとともに、状況に応じて速やかに市へ報告がなされた。毎月実施するセルフモニタリング等において苦情等の対応記録を市へ適切に報告された。						
●11月から順次実施しているナラ枯れによる倒木の危険がある区域の通行止めについて、来園者に分かりやすいよう掲示物の説明方法を工夫し、適切な場所に掲示し、分かりやすい案内を行った。						
●利用者から意見のあった、初山地区での野良猫の増加への対応として、猫ボランティアに働きかけ、活動につなげるとともに活動に使用する腕章の提供や地域猫の活動に関するポスター制作等の協力を行った。						

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか			
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか	6	4	4.8
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	4	3	2.4
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	4	4	3.2
<p>（評価の理由）</p> <p><b>【適正な人員配置】</b>  ●有資格者等必要な人員を不足なく配置するとともに、普段から各施設の担当者等が研修や情報共有を通じて他施設の業務も理解し、構成企業本部の応援体制も構築することにより、コロナ禍において濃厚接触等により欠員が見込まれた際も人員を融通し、運営に支障を来すことがなかった。</p> <p><b>【連絡・連携体制】</b>  ●各館の業務責任者や施設長等が参加する全体会議を定期的に開催し、情報共有の円滑化に努めた。また、各館の担当者等が参加する工程会議では、工事・展示関係による車両の進入情報や危険個所の情報、委託警備会社からの巡回警備の際に気づいた課題等を共有し管理運営を行った。  ●グループLINE等の活用により、迷子や救急車等の緊急時の各館への迅速な情報共有及び市への報告を速やかに行った。</p> <p><b>【再委託管理】</b>  ●毎月実施している所管課モニタリングにおいて日報や作業写真等の提出を受けており、適切に管理していることが確認できる。また、委託先の責任者がJV会議や全体会議に出席し、情報共有を図った。</p> <p><b>【担当者のスキルアップ】</b>  ●各施設のスタッフが集まる研修の開催により各施設の課題の共有、活性化に向けたアイディアを話し合い、本部とも共有することにより、各施設の運営に生かした。  ●館内アナウンスを正確に伝えることにより、サービス向上につながるほか、災害時の正確な情報の伝達に生かすため、スキルの高いスタッフが講師となりアナウンス研修を行った。</p> <p><b>【安全・安心への取組】</b>  ●大雨、強風の際は、迅速にパトロールを行い、危険箇所を把握し、通行止めの措置等を適切に実施した。  ●東ロビーターセンターは緊急避難場所となることから、感染症流行時に対応できるよう、濃厚接触者や発熱者の避難を想定し、多摩区役所と避難所開設のレイアウトを確認した。</p> <p><b>【コンプライアンス】</b>  ●リスクマネジメント（Pマーク・ハラスメント防止）に関して各施設でテキストを活用するとともに確認テストを実施し、スタッフのコンプライアンスに関する理解を深めるなど適切な運用に努めた。</p> <p><b>【職員の労働条件・労働環境】</b>  ●9月から1月にかけて「母の塔」前広場防水工事のため5か月の休館となったが、看視スタッフを通常の開館時には実施できない特別清掃や館内整備に充てるなど雇用を維持し、スキルを持ったスタッフの確保に努めた。  ●植栽等の維持管理を担当する作業員を対象とした月1回の災害防止協議会の実施及び日常のこまめな体調管理の声掛け等により、前年度に引き続き無事故無災害となった。</p> <p><b>【環境負荷の軽減】</b>  ●東ロビーターセンターに本市が設置した薪ストーブの燃料としてナラ枯れ被害木を含む生田緑地の樹木管理による発生材を利用した。  ●集めた落ち葉について、市内の施設や団体へ提供したり、落ち葉プールとして使った後はホテルの里の田圃に還元した。また、竹でカラーコーンバーを制作する等、廃棄物の削減にも寄与する取組を行った。  ●科学館で不要となった石材を加工し、東口花壇の保水維持に有効活用するなど、横断的管理運営を生かした再利用を行った。  ●希少種保護のための盗掘防止掲示や、カブトムシ等の採取防止や樹液にハチが集まるのを防止するため、園路沿いのクスギにラップを巻き対応した。また、侵略的外来種について、アメリカザリガニをどろんこ教室実施時や清掃時に捕獲した。</p>					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	3	4.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	外構・植栽管理(建物)	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	6	4	4.8
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	2	4	1.6
	樹木等管理	協働による順応的な植生管理、四季の見どころとなる植栽管理が適切に行われているか			
<p>(評価の理由)</p> <p><b>【施設・設備の保守管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●年間業務計画に基づきそれぞれの施設の特性に合わせた適正な業務の遂行に努めており、業務日報等で適切に管理している。また、日常、定期点検を通じて設備不具合及びその兆候を発見した場合は、常駐技術員が対応・処置及び、状況により協力業者へ対応依頼を行った。</li> </ul> <p><b>【管理記録の整備・保管】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日の施設巡回により、設備や備品の不具合の早期発見と事故の未然防止に努めるとともに、管理記録を毎日の業務日誌に記録している。</li> </ul> <p><b>【外構・植栽管理(建物)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設ごとの植栽管理方針に基づき、適切に草刈、剪定等を行い、利用者が快適に楽しめる空間を提供した。</li> <li>●新たな植栽が難しい生田緑地内において、企業の技術を生かし、各施設内等に季節ごとや行事等の際に、花を使った季節を感じられる装飾を行い、好評を得た。</li> </ul> <p><b>【備品管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各施設で設備・備品の管理簿を作成し、適切な管理、整頓を行うとともに、備品台帳の更新を行った。また、消耗品等の補充を適時かつ十分に行った。</li> </ul> <p><b>【清掃業務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●晴天時、民家園の除草作業の頻度を上げるため、ビジターセンタースタッフが清掃をサポートし、除草作業に人員を割く等の柔軟な管理を行い、四半期アンケート調査において、約94%の利用者から「清潔だった」以上の評価を得た。</li> <li>●5か月の長期休館を実施した美術館においては、通常開館中には実施することのできない展示室床面のディスタンスシールの撤去や来館者用ソファや椅子のシミ取り、壁面の汚れ除去等などの特別清掃を実施した。</li> </ul> <p><b>【警備業務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣施設との情報交換を行い、イベント等を把握するとともに、時期や天候により駐車場の混雑が予測される際は駐車場警備を警備会社に委託し、車両及び歩行者の安全を確保した。</li> <li>●多摩警察署と定期的な情報交換を行い、ばら苑周辺や初山地区等警備体制が十分でないエリアでの悪戯や迷惑行為防止のため、昼夜問わずパトロールを実施してもらう等の協力関係を構築した。</li> </ul> <p><b>【樹木管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ナラ枯れ調査を7月～11月に実施するとともに、本市及びマネジメント会議の各団体と連携し、伐採スケジュールや処理方法、優先順位等の調整を行った。また、枯れ枝は落枝等の危険があることから、特に強風時等は巡回を強化し、利用者の安全確保に努めた。さらに、園路沿い等、来園者に危険が及ぶ可能性がある被害木について、伐採を行った。</li> <li>●園内のサクラについて、日本花の会の協力を得て品種同定を行い、桜マップを作成して園内掲示を行った。また、昨年度に引き続き日本梅の会の協力を得てウメの品種の同定を進めるとともに、指導を受けながら樹勢改善のための整姿剪定、施肥、過去に枝下ろしを行った患部の養生、日照確保のための支障木伐採等を行った。</li> </ul>					

#### 4. その他加算

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加算	市の政策課題への取組	資源循環及び地域包括ケアシステム推進の取組	5	4	4
	(評価の理由) ●発生材の活用 竹林管理における除伐による竹を、補修材に活用するとともに、市民団体と協働によりスタードームを作成し、落ち葉プールやホテルの一生の展示などに活用したり、身近な竹や放置竹林の問題、生田緑地内での活用事例等を紹介しながら竹風鈴づくりのワークショップを行った。また、緑地内で繁茂するアズマネザサの活用方法を検討し、クリスマスオーナメントや季節のモチーフのクラフトキットを販売した。 また、東口ビジターセンターで市立高校美術部の展覧会を実施した際にナラ枯れについてガイダンスを行い、伐採した被害木の食害の跡を生かして絵画が描かれたり、本市のアートフォーオール事業の1つとして生田緑地を会場に実施された「アートピクニック」では、ナラ枯れやアズマネザサの状況について主催者に説明し、アート作品やワークショップに利用されたほか、樹木医を紹介して講習を行い、参加者にナラ枯れ等への理解を深めてもらった。 樹木管理業務で発生する木材を薪として自主事業で販売するとともに、各館の自主事業のワークショップ等や、日本民家園での燻煙作業で得られた灰を伝統工芸館で本藍の液を建てる際に使用したり、落ち葉を堆肥やカブトムシ飼育用の腐葉土として提供する活動を継続して行ったほか、ペール缶で炭を作って美術館前水路の水質浄化剤として活用した。 このように、生田緑地の特性を生かし、維持管理に伴う発生材を資源として緑地内外で持続的に活用する取組を行うとともに、単に提供するのみならず、機を捉えて生田緑地の自然への理解を深める取組を行った。 これらの取組は、生田緑地ビジョンの基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息つき緑が繋げる持続可能な生田緑地の実現」及び、「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」に通じる取組として評価できる。 ●地域包括ケアシステム推進 ベーシックヨガ、リラクソヨガ、高齢者にも無理のない椅子ヨガや、ベビーマッサージ等、子どもから高齢者までの健康保持や親子のコミュニケーション向上につながる自主事業や、近隣児童施設との協働による青空保育として来園者への本の読み聞かせ等に協力した。また、スプリングマルシェでの「心と体の健康」をテーマにしたプログラム等、心身の健康の維持・向上につながる企画を実施するなど、地域包括ケアシステム推進の取組として評価できる。				

#### 5. 総合評価

評価点合計	78.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

##### ※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準(評価点合計)
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。(80点以上)
B	総合評価の結果、優れていると認められる。(70点以上80点未満)
C	総合評価の結果、適正であると認められる。(60点以上70点未満) <b>※標準点</b>
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。(50点以上60点未満)
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。(50点未満)

#### 6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●生田緑地の課題の一つである飲食の提供については、西口広場へのキッチンカーの誘致や、マルシェの回数を増やすなどにより充実が図られた。また、3館それぞれの個性を生かし、本市と連携した効果的な広報及び、自主事業を展開した。</li> <li>●新規イベント参入の大学生等に助言、協力をして、協働の中でイベントを成功させるなど、若者の活動への支援を行った。</li> <li>●市民団体との協働の取組として、市民活動に対し、自主性を尊重しつつ、さまざまな活動を支えた。また、樹木管理についても、継続的な調査によるナラ枯れの状況の把握、市民団体と連携した管理を行った。また、清掃等管理業務については、美術館の休館を利用しての特別清掃などの特出すべき点や、日常の維持管理を着実にを行うことにより、清掃状況の満足度が高評価となっている。</li> <li>●令和4年度については、コロナの規制の緩和によるレジャーの選択肢の拡大や、岡本太郎美術館の休館など様々な要因による、入園者数の減や、燃料の高騰などによる電気代の高騰など厳しい環境の中、節電等に努めると共に、魅力ある事業を展開した点は評価できる。</li> </ul>
--

#### 7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<ul style="list-style-type: none"> <li>●第3期指定管理期間の開始に当たり、防災、収納事務等の各種マニュアルや事務フローについて、確認いただきたい。</li> <li>●生田緑地がコア会場の一つとなる全国都市緑化かわさきフェア開催に向けて、引き続き必要な協力をいただきたい。</li> <li>●3館及び緑地でのイベント、ワークショップ等についてそれぞれ創意工夫により展開していただいているところであるが、横断的管理運営を生かし、館の垣根を超える取組等についてもさらに充実を図っていただきたい。</li> <li>●他施設等との連携を含め、緑地内の維持管理作業による発生材の有効活用に関する取組を継続・発展させていただきたい。</li> <li>●引き続き、安全・安心かつ清潔な公園及び施設の維持管理に努めるとともに、創意工夫により効果的かつ効率的な支出及び魅力的な自主事業の実施等により収入の確保に取組み、収支のバランスに注意して業務を行っていただきたい。</li> </ul>
---